

重点地区候補地区の追加について（富崎漁港周辺地区）

「第 5 章 重点地区の景観まちづくり」において列挙する「重点地区候補地区」について、平成 30 年 9 月 5 日付けで、内容を一部修正し、策定委員の皆様にご意見を照会したところ、「富崎地区」の取扱いについて、愛沢委員より以下の内容の意見提出がありました。

○事務局の修正内容・修正理由

- ・重点地区候補地区から「富崎地区」を削除する。

⇒景観まちづくりワークショップ等でも、住民主体となった景観形成への意欲等が多く見られたことから、候補地区としていたが、他地区でも景観に関する取組みは行われており、現時点では、明確な差別化が難しいと考える。

景観計画策定後の更なる気運の高まりや、地区住民からの重点地区指定の提案等による重点地区化を進める方が、今後の住民主体の景観形成に繋がるのではないかという理由から、景観計画策定当初の候補地区からは除外した。

↓

○愛沢委員からの意見

- ・観光を活かしたまちづくりという視点で「富崎地区」を再追加してもらいたい。

⇒富崎地区については、今まで、地域コミュニティと NPO 法人とが一体となって、まちづくりを 15 年近く進めて来ており、「更なる気運」ということより、今までの活動を背景に、景観計画の重点地区候補として、残してもらいたい。

ガイドやまち歩きを充実させて、観光の視点でも人を呼べるまちづくりをしていて、これからも進めていきたいと考えており、官民が一体となった「持続可能なまちづくり」の一つのモデルケースとするためにも、残しても良いのではないかと。

○策定委員会で議論いただきたい事項

重点地区候補地区への「富崎地区」の再度の追加について、委員の皆様よりご意見をいただきたいと思えます。

なお、富崎地区を追加した場合の、計画書記載内容の案を以下のとおりご提示します。

4. 重点地区の候補地区

地区名	地区の概要
富崎漁港周辺地区	<ul style="list-style-type: none">・マグロ延縄船発祥の地として、明治期より漁村風景が形成されていた地区です。また、日本を代表する画家である青木繁が滞在し、『海の幸』を描いたといわれる小谷家住宅を中心に、昔ながらの漁村風景が広がり、海越しに、大島や富士山を望むことができます。・当地区では、長年、小谷家住宅の保存活動と並行して、地域住民が主体となり、景観を活かした観光の視点でのまちづくりが取り組まれています。

⑥富崎漁港周辺地区

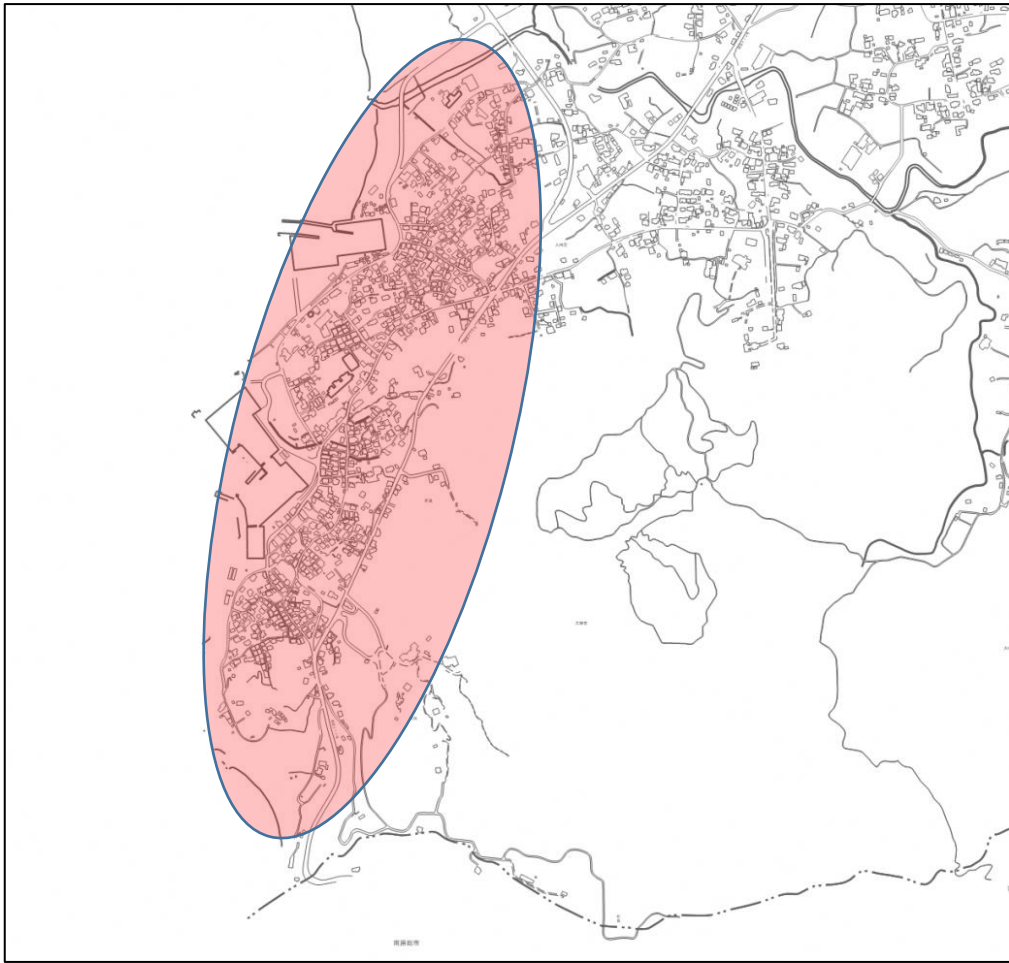


図 富崎漁港周辺地区

●景観形成の方針●

○漁村の街並みと海への眺望の保全

- ・建築物等の色彩、デザインの工夫などにより、小谷家住宅をはじめとする漁村の雰囲気を残す建築物等との調和を図り、漁村景観の保全に努めます。
- ・また、建築物や工作物等の建築・建設について、海越しの大島や富士への眺望を阻害することのないよう配慮し、海への眺望辺の景観の保全に努めます。

○観光を視点とした景観まちづくり

- ・既にある回遊ルートの周知や、休憩所の設置、案内看板の設置等により、観光客が地域内の見所を散策しやすい環境の整備を図るとともに、デザイン等の統一を図ったサイン計画となるよう配慮し、魅力ある回遊空間の創出に努めます。
- ・また、景観を活かしたまちづくりとして、「持続可能なまちづくり」のモデルとなるよう市と地域が一体となった取り組みを進めていきます。